

学校評価（共通項目）評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明（ここにコメントを入力してください）
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像「一人一人が輝く活気と潤いのある学校」の具現化として、校長の経営方針の下、全職員の人事評価に係る自己評価シートの目標を連鎖させて、教科指導、学級・学年経営、校務分掌等、全教職員で組織的に取り組んだ。 ・「栽培活動」は引き続き特色ある活動として取り組んでいる。委員会活動による学級花壇整備、保護者協力によるPTA花壇整備、除草作業等実施した。 ・毎週、各種校内委員会（運営、生徒指導、教育相談）を行い、情報連携から、各分掌、担当教諭が共通理解の下、組織として機能するよう運営している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境に恵まれ、経営方針の下に運営されている。 ・学校全体では目標に向かう努力をしているが、保護者アンケートの評価が低い。学校は、保護者に対して学校の取組をもう少し丁寧に説明した方が良い。 ・学校の企画力、行動力は素晴らしい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 <small>（※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む）</small>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修にて、心肺蘇生法、エピペン等アレルギー対応の研修を実施した。 ・避難訓練は、地震、火災、浸水を想定した訓練を行い、火災を想定した訓練では消防署員と通報訓練を取り入れた。 ・日常の点検、月に1度の定期点検を実施、危機管理マニュアルの配付、保護者と連携して通学路点検（校外バトロール）の実施、メールによる不審者情報の配信を実施した。 ・いじめ根絶の取組として、11月のいじめ根絶月間に「心と生活アンケート」、6月と2月に「いじめアンケート」、人権週間、教育相談週間を実施している。 ・いじめ防止対策基本方針を見直し全職員で確認し、いじめ防止の意識の徹底と公式的な対応を進めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全般をとおして多方面の協力の下、取組をしていることがわかる。 ・職員、保護者の評価点がいずれも高く、安全対策が充実していることがうかがえる。 ・危機管理マニュアルの内容も大変充実している。 ・校内での怪我や病気よりも、熱中症対策等についての改善要望が多いため、教育現場の状況を行政に詳細に説明して改善する必要がある。 ・避難訓練等、校内内の危機管理については十分な対応がなされているが、校門からの通路に車両が多く駐車され、万が一の時に障壁にならないか。周辺に駐車場を確保するよう、働きかけたい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県学力・学習状況調査では、全学年とも概ね県の平均と同程度で、2年英語が県平均を上回った。 ・全国学力・学習状況調査では、3年生国語、数学、英語、いずれも概ね県の平均と同程度であった。 ・質問紙調査の結果では、国の教育基本計画Well Beingに関わる数値が高く、自己肯定感が高い傾向がある。 ・調査結果の分析から、「先生はわかるまで教えてくれている」ことに対して肯定感が強く、基礎的・基本的な知識は定着してきている。一方で、思考し、表現することには、苦手意識を持っている生徒も多いと捉えられる。 ・指導方法の工夫・改善を引き続き推進し、一人一人の生徒の支援や個別最適化の学習の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒よりも保護者からの評価がかなり低くなっているため、改善は必要であろう。ただし、学校は教職員の負担にならないような対策をとりつつ、基礎学力に問題がある生徒に対して補講等を行ってほしい。 ・学力調査を指標にすれば、県平均と同程度で、基礎学力は身に付けている。 ・3年間の積み上げにより、学習意欲、習慣化が的確に数値に表れている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の少人数指導やT.T、美術科において個に応じた指導の充実に取り組んでいる。 ・一人一人に配布されたタブレット端末の活用を推進し、主体的、対話的で深い学びの実践を積極的に推進している。 ・授業実践では、各教科における活用方法の模索と教科を超えた研修を継続して行っている。 ・質問教室の実施、学習カードや評価カードの活用など、個々の学びを支援できるよう工夫している。 ・学力調査の質問紙調査では、「先生は良いところを認めてくれる」が58.4%、「わかるまで教えてくれる」が60.4%であり、国（県）との比較が高い値となっている。 ・生徒アンケートからは「授業はわかりやすい」は98.0%、保護者アンケート「生徒の実態に基づいた授業をしている」は74.7%である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・限りある時間の中での学習指導は大変なことである。 ・生徒一人一人に沿った指導を充実していただきたい。 ・生徒の実態に合わせるとはいえ、1クラスの生徒数の問題もあるため、学校はできることをおこなっているが、それでも必要があれば教員の負担にならないように配慮しながら、補講をおこなうなどの工夫が必要であろう。

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明（ここにコメントを入力してください）
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートからは「チャイム着席や私語をしないで話を聞くなどの授業のルールを守っていますか？」の質問に92.10%、「あなたの学年はチャイム着席や私語をしない・・・」では63.2%。保護者アンケート「生活ルールや規律ある態度が身に付いている」93.2%。職員アンケート「生活ルールや規律ある態度・・・」は86.7%となっている。 ・朝のあいさつ運動、黙読清掃、授業評価、行事前の〇日間チャレンジ、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等、生徒が主体となる取組を推進することで、学校生活の変化を作り、達成感や成就感が高める実践を行った。 ・制服や学校のルールについて、生徒会本部役員を中心に意見交換の機会を設定し、生徒自身の自治意識を高め、自らルールを守ろうとする意識の醸成を図っている。 ・各種取り組みの継続により、概ね規律ある態度が身につけてきていると捉えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験を拝見したが、「規律ある態度」で活動していた。 ・生徒のアンケート結果を見ると、学校というよりも生徒自身に問題があることが分かる。なぜ「規律ある態度」が必要なのかを生徒と一緒に考えながら、生徒に理解させるのも一案かと思われる。 ・学校内では落ち着いて生活できている。訪問者に対しての挨拶も身につけている。 ・地域の問題でもあるが、登下校時も規律ある態度を取って欲しい。 ・この項目ではアンケート結果のうち、客観的に評価することができる保護者のスコアが高い。生徒たちが学校で身につけた生活態度が、家庭においても発揮されているのではないかと考える。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会・部会（運営、生徒指導、教育相談）を定期的に（ほぼ週に1回）行い、生徒の実態について情報を共有し、把握に努めている。 ・教諭した情報に基づき、組織的な指導の手立てと進捗を確認し、必要に応じて対策を講じている。 ・毎月生徒指導委員会を開催し、月ごとに生徒で組織する委員会の活動計画、活動報告を行い、委員会活動の活性化を通して意図的な主体性を養う活動を促している。 ・生徒アンケートから「校則などの生活のきまりを守る」91.6%、同様に「あなたの所属学年が校則などの生活のきまりを守る」は84.2%となっている。 ・毎月の重点目標を校内各所に掲示し、意識の高揚を図るとともに、委員会活動を連鎖させ、規律ある態度の改善に努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の充実やいじめの根絶、校則の見直しについて生徒会との意見交換がおこなわれ、良い方向に動いている。 ・生徒会や委員会等、生徒自身で考えることが重要であるが、問題点や解決へのアドバイスを教員が上手に提案することも大切である。 ・生徒一人一人を見守っていく信頼関係が見て取れる。 ・校則の見直しを、生徒と教員相互の意見交換をしながら進めていく取組に期待していた。できあがった校則の満足度を尋ねる取組はなされたのか気になる。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心に、生徒の自主的な活動の一環として昼休みに体育館を開放をおこなったり、グラウンドの開放やボールの貸し出しをおこなったりすることで、生徒が体を動かす機会を確保している。 ・グラウンドが使える日には、昼休みに、上級生、下級生に関わらず多くの生徒が体を動かしている。 ・部活動について生徒アンケートからは「部活動は楽しくやりがいがある」が85.5%となり、やや昨年を下回ったが、朝霞市のガイドラインに基づいて、目的意識を持ち熱心に活動に取り組んでいる。 ・保護者アンケートでは「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」93.2%、職員アンケートでは90.0%の回答が得られている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の使用に関する問題はありますが、生徒たちが楽しみ、保護者も高評価なので問題はないと考えられる。 ・体力の個人差が大きく、指導が難しい年代であるが、楽しい部活動を期待する。 ・1年生のアンケート数値が低いが、学校生活に慣れるにしたがい満足度が上がっている。学校生活に良い雰囲気があるためであると思う。 ・大柱と評価項目への意見になるが、「健康・体力向上」に対して「心や人の内面」に関する教育活動の評価項目が無く、図書室利用・文化活動など、この評価書上で評価しきれないのが残念である。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト種目別記録の掲示や体力課題を意識した体育授業の改善など、生徒の意欲を喚起し体力向上に取り組んでいる。 ・保健委員会を中心に、熱中症や感染防止対策の注意喚起、学校歯科医、衛生士と連携した歯科保健指導、学校保健委員会の開催、各学年で、助産師の方からの性に関する講演会などを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は意図を持った体育活動や講演会等を行っているが、暑くなる前に熱中症対策講座等も行うことも大切だと考えられる。 ・保護者の約8割、職員の約9割が生徒の体力を高めるために意欲的な取組をしていると評価している一方、熱中症対策としては不十分であると判断している。 ・自宅で伝えられないこと（生活面、衛生面、発育面 他）の知識を高めることができる。 ・大柱と評価項目への意見になるが、「健康・体力向上」に対して「心や人の内面」に関する教育活動の評価項目が無く、図書室利用・文化活動など、この評価書上で評価しきれないのが残念である。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と教師の会や地域の方々と連携しながら、今年度「二中鳴子 双葉」を復活させた。4年ぶりに朝霞市民まつり「彩夏祭」へも参加することができた。 ・学生ボランティア、ジャグリング、部活動外部指導者の取組など、地域の人材を昨年度以上に活用することができた。 ・保護者アンケートでは、「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」80.5%、同じ項目で職員アンケートでは80.0%と若干下がってきているため、コロナ対策のため縮小していた活動を、必要に応じて今後再開していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「二中鳴子 双葉」を復活させ、4年ぶりに「彩夏祭」へも参加するなど、生徒のみならず卒業生や関係者に「朝霞二中」への思いを深められたことは重要である。今後も朝霞二中生としての自信と誇りを持ってよう、地域活動にも頑張ってもらいたい。 ・懇話であった「彩夏祭」への参加が、多くの協力者のもと実現できたことが良かった。久々のことで盛り上がり、成功を取めたが、次年度以降も継続するためには人の入れ替えがあっても引継ぎできるようにすることが重要である。 ・職業体験等、地域に密着した活動がなされている。一層、地域の人との交流の場を増やしてみたい。 ・保護者と教師の会のほか、現在は学校運営協議会の役割も求められるが、私としてはまだその成果について評価云々言えるまで到達していない。さらに模索が続いていく。 ・保護者アンケート結果を見ると、ほぼ満足していることがうかがえる。
	10	学校は保護者や地域と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と教師の会を中心に、地域保護者、教員による校外パトロールを2度実施し、通学路の危険箇所の点検や市への要望を行った。 ・保護者アンケートでは「学校は保護者や地域と協力し合って、生徒の安全指導や健全育成に取り組んでいる」80.5%であった。職員アンケートでは80.0%となっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに時間等の制限もあるため、できることは少ないかと思われるが、保護者会等を活用して生徒の現状や学校の考え方をしっかりと伝えることで保護者に共通認識を持ってもらうことは可能だと考えられる。 ・学校・家庭・地域が一体となって行われるふれあいフェスティバルや、PTAによる通学路の安全確認など、生徒の健全な成長と安全を願い、守る取組は意欲的に継続されており、保護者と教師の活動には頭が下がる思いである。 ・青少年健全育成事業の作文など、より積極的な参加を期待する。彩夏祭の参加は、個人的な問題であり、学校全体としての評価には値しない。

注：「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満